

平成21年度の自動車不具合情報の統計結果について

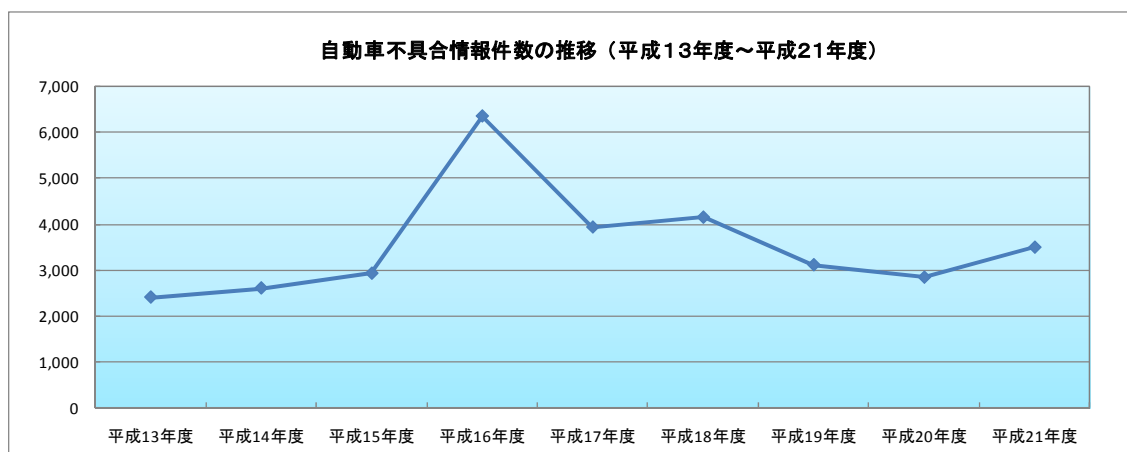
国土交通省の自動車不具合情報ホットライン (<http://www.mlit.go.jp/RJ/>) に自動車ユーザー等から寄せられた市場での自動車不具合情報について、平成21年度の統計結果を公表いたします。

なお、本自動車不具合情報は、設計又は製造に起因するものに限られておらず、整備不良やユーザーの誤使用など他の要因に起因する可能性があるものも含まれています。また、本統計はあくまでユーザーの申告による不具合情報を元にしており、国土交通省として不具合情報の内容の事実関係を保証しているものではありません。

1. 平成21年度に国土交通省の自動車不具合情報ホットラインに寄せられた不具合情報（以下、「不具合情報」という。）の件数は、6,995件であり、そのうち有効な不具合情報は3,493件である。不具合情報件数の推移状況は、平成16年度をピークに減少傾向であったが、平成21年度は増加傾向に転じた。

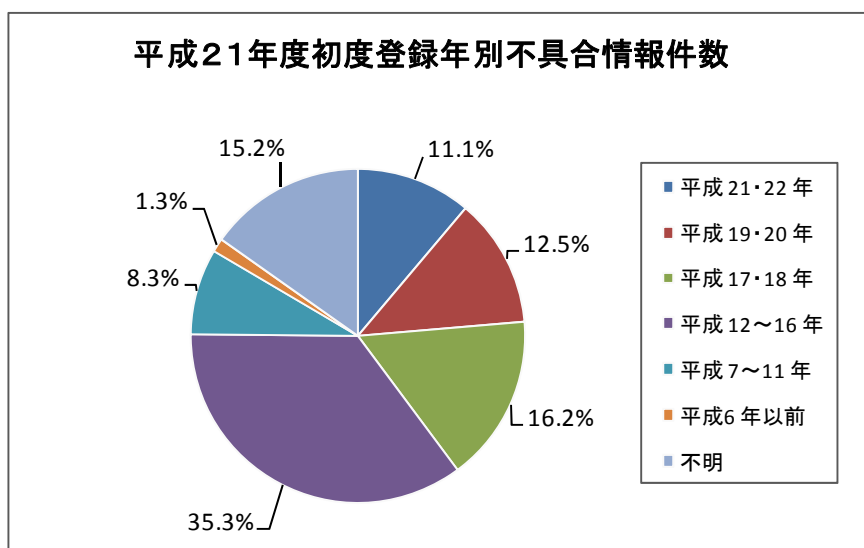
平成16年度は、三菱自動車工業の不正行為が明らかとなった年であり、当該メーカーの自動車に関する情報が数多く寄せられたことから不具合情報が急増したものである。

また、平成21年度の不具合情報の増加傾向は、トヨタ自動車のハイブリッド車の制動装置不具合をきっかけとしてリコールに対する社会的な関心が高まり、結果としてユーザーから多くの不具合情報が寄せられたことが影響している。



年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
件数	2,403	2,604	2,925	6,361	3,934	4,150	3,110	2,837	3,493

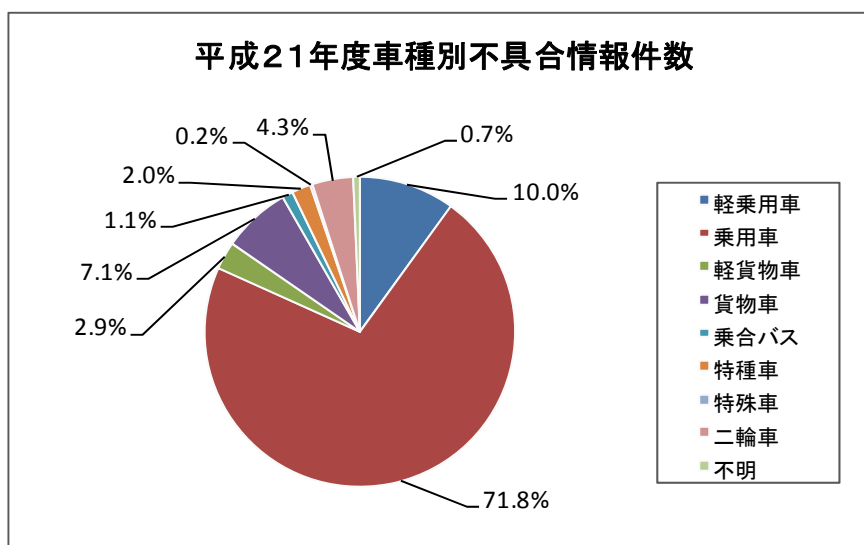
2. 初度登録年別不具合情報件数は、初度登録年が平成12年から平成16年の自動車について発生した自動車不具合情報の申告が1,234件と全体の約35%と最も多く、次いで、平成17年・18年565件、平成19年・20年437件の順となっている。



初度登録年別 年度別	平成21・22年	平成19・20年	平成17・18年	平成12～16年	平成7～11年	平成6年以前	不明	合計
平成21年度	389	437	565	1,234	291	46	531	3,493

3. 車種別不具合情報件数は、乗用車の不具合情報2,507件が全体の約72%と最も多く、次いで、軽乗用車348件、貨物車248件の順となっている。

これは、自家用乗用車を所有する一般のユーザーから不具合情報が寄せられる割合が高く、また、乗用車の保有台数40,419千台が全保有台数78,693千台（平成22年3月末現在）の約51%であることから、不具合情報件数は自動車保有台数と概ね相関しているものと考えられる。

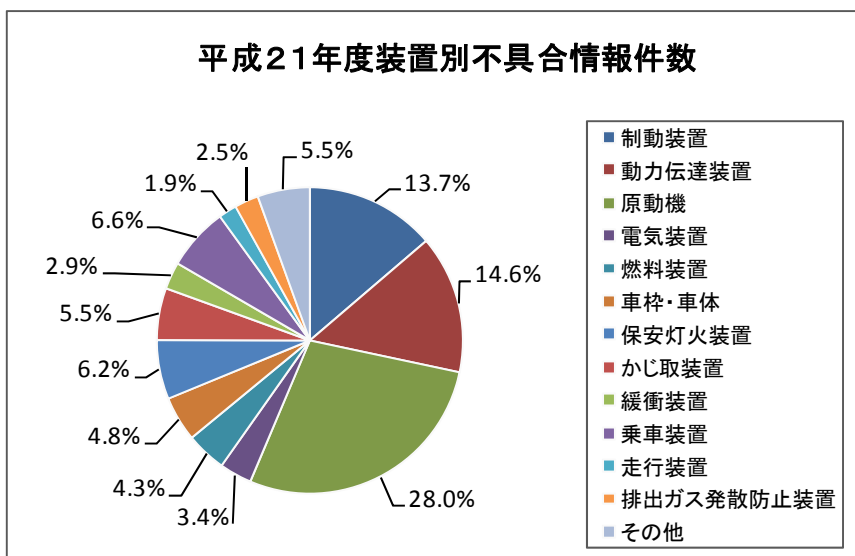


車種別 年度別	軽乗用車	乗用車	軽貨物車	貨物車	乗合バス	特種車	特殊車	二輪車	不明	合計
平成21年度	348	2,507	101	248	39	69	8	149	24	3,493

4. 装置別不具合情報件数は、原動機 979 件が全体の約 28%と最も多く、次いで、動力伝達装置 510 件、制動装置 480 件、乗車装置 231 件、保安・灯火装置 218 件、かじ取装置 192 件、車枠・車体 166 件、燃料装置 149 件、電気装置 119 件、緩衝装置 100 件、排出ガス発散防止装置 89 件、走行装置 67 件の順となっている。

また、不具合情報件数の多い装置について詳細を見ると、原動機の不具合事象は、破損・折損 187 件、エンスト 168 件が多く、動力伝達装置の不具合事象は変速不良 214 件、制動装置の不具合事象は制動力不足 304 件が最も多かった。

なお、制動装置の制動力不足は全ての不具合事象の中で最も多かったが、これはハイブリッド車の制動装置不具合の影響により、多くの不具合情報が寄せられたことによるものと考えられる。

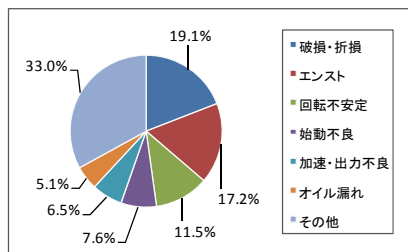


年度別	装置別	制動装置	動力伝達装置	原動機	電気装置	燃料装置	車枠・車体	保安灯火装置
平成 21 年度		480	510	979	119	149	166	218

年度別	装置別	かじ取装置	緩衝装置	乗車装置	走行装置	排出ガス発散防止装置	その他	合計
平成 21 年度		192	100	231	67	89	193	3,493

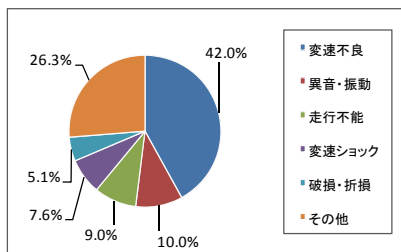
注：エアバッグやシートベルトなどの保安装置は乗車装置として分類

1.原動機



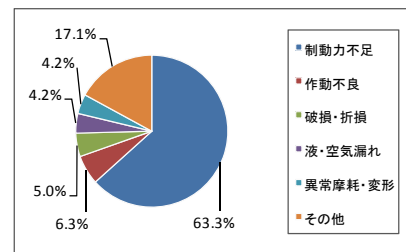
順位	不具合事象	件数
1	破損・折損	187
2	エンスト	168
3	回転不安定	113
4	始動不良	74
5	加速・出力不良	64
6	オイル漏れ	50
	その他	323
	合計	979

2.動力伝達装置



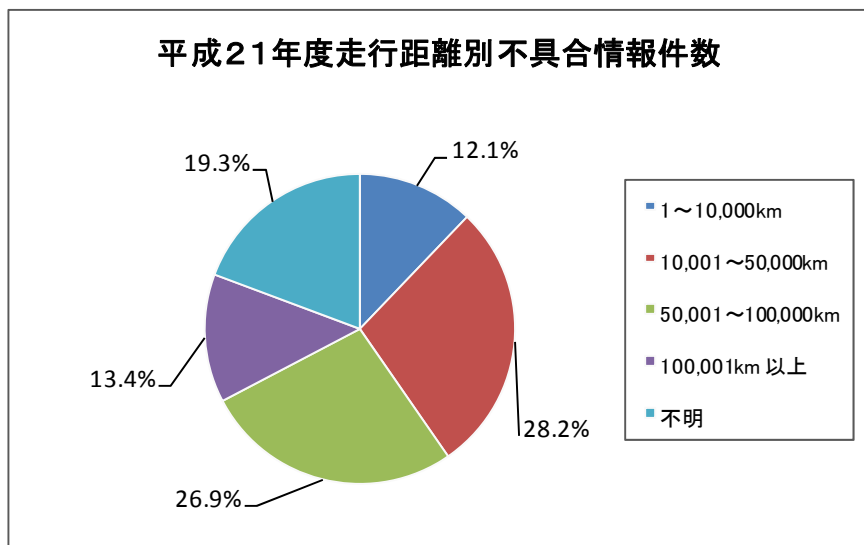
順位	不具合事象	件数
1	変速不良	214
2	異音・振動	51
3	走行不能	46
4	変速ショック	39
5	破損・折損	26
	その他	134
	合計	510

3.制動装置



順位	不具合事象	件数
1	制動力不足	304
2	作動不良	30
3	破損・折損	24
4	液・空気漏れ	20
4	異常摩耗・変形	20
	その他	82
	合計	480

5. 走行距離別不具合情報件数は、走行距離が1万kmを超え5万km以下986件が全体の約28%、5万kmを超え10万km以下941件が約27%と多くなっており、次いで10万kmを超え468件、1万km以下424件の順となっている。



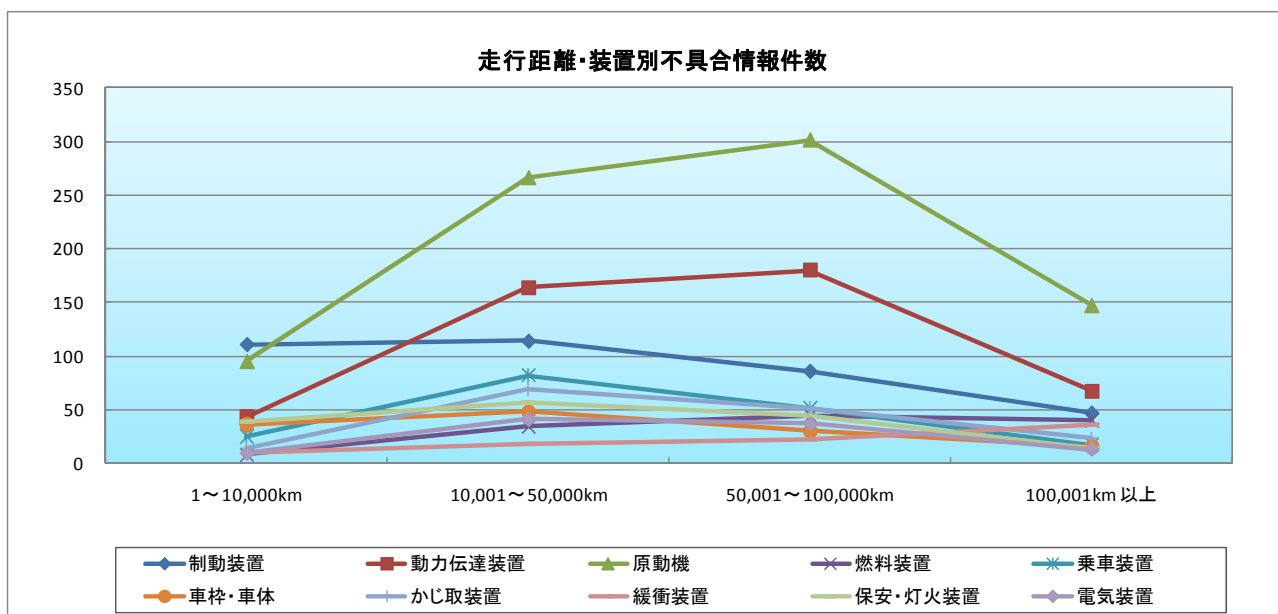
年度別	走行距離別					合計
	1~10,000km	10,001~50,000km	50,001~100,000km	100,001km以上	不明	
平成21年度	424	986	941	468	674	3,493

(件)

6. 走行距離・装置別不具合情報件数は、走行距離1万km以下を除いた走行距離別の区分においては、全ての区分で原動機の不具合情報が最も多く、次いで動力伝達装置、制動装置の順となっている。

一方、走行距離1万km以下については、制動装置の不具合情報が最も多く、次いで原動機、動力伝達装置の順となっている。これは、平成21年度に発生したハイブリッド車の制動装置不具合の影響により、多くの不具合情報が寄せられたことによるものと考えられる。

また、不具合情報件数が最も多かったのは、走行距離5万kmを超え10万km以下の原動機301件であり、次いで、1万kmを超え5万km以下の原動機266件、走行距離5万kmを超え10万km以下の動力伝達装置180件の順となっている。



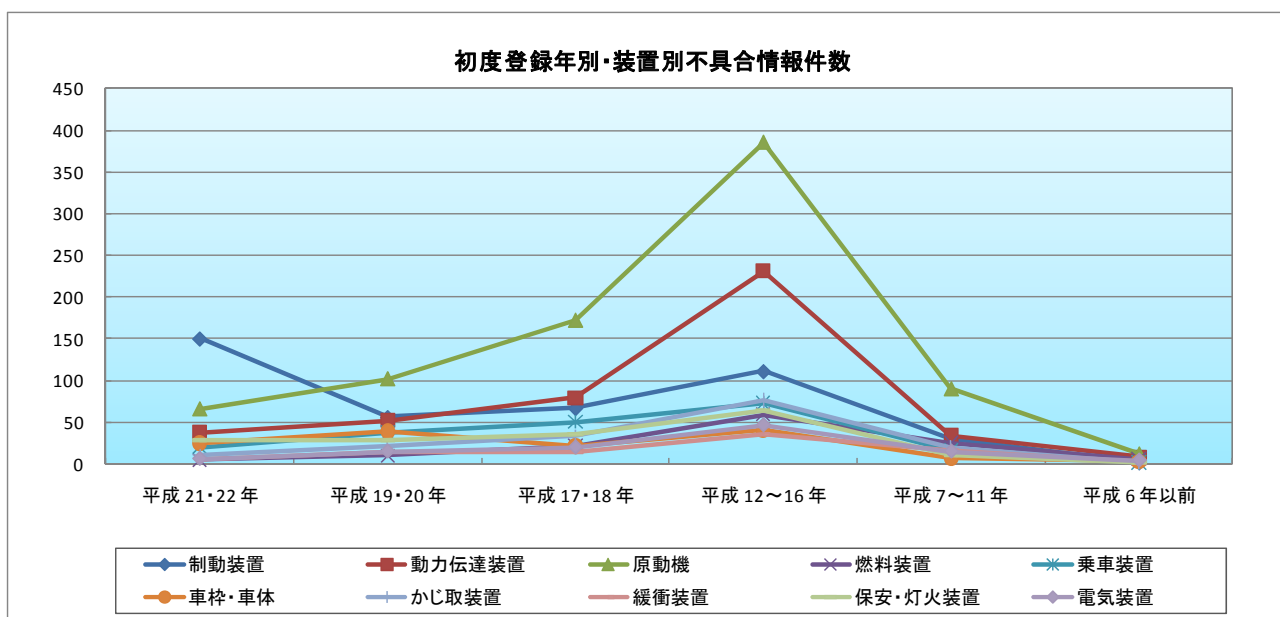
順位	走行距離別		10,001～50,000km		50,001～100,000km		100,001km 以上	
	1～10,000km	件数	件数	件数	件数	件数	件数	
1	制動装置	111	原動機	266	原動機	301	原動機	147
2	原動機	95	動力伝達装置	164	動力伝達装置	180	動力伝達装置	67
3	動力伝達装置	43	制動装置	114	制動装置	86	制動装置	47
4	保安・灯火装置	39	乗車装置	82	乗車装置	51	燃料装置	40
5	車枠・車体	36	かじ取装置	69	かじ取装置	51	緩衝装置	36
6	乗車装置	25	保安・灯火装置	57	保安・灯火装置	44	かじ取装置	23
7	かじ取装置	14	車枠・車体	48	燃料装置	44	排出ガス発散防止装置	19
8	緩衝装置	10	電気装置	41	電気装置	37	乗車装置	17
9	電気装置	9	燃料装置	34	排出ガス発散防止装置	36	車枠・車体	15
10	燃料装置	8	排出ガス発散防止装置	18	車枠・車体	30	保安・灯火装置	14
11	走行装置	6	緩衝装置	18	緩衝装置	22	電気装置	13
12	排出ガス発散防止装置	5	走行装置	16	走行装置	19	走行装置	11
	その他	23	その他	59	その他	40	その他	19
	合計	424	合計	986	合計	941	合計	468

7. 初度登録年別・装置別不具合情報件数は、平成 21・22 年を除くと、全ての区分で原動機の不具合情報が最も多くなっている（平成 21・22 年は 2 番目に多い）。

次に、動力伝達装置の不具合情報が、平成 21・22 年及び平成 19・20 年の区分を除いて、2 番目に多くなっている。

制動装置の不具合情報は、平成 7 年から平成 18 年までの各区分においては、3 番目に多くなっているが、平成 19・20 年の区分では 2 番目、平成 21・22 年の区分では最も多くなっており、ここでも、平成 21 年度に発生したハイブリッド車の制動装置不具合の影響により、多くの不具合情報が寄せられたことによるものと考えられる。

また、不具合情報件数が最も多かったのは、初度登録年が平成 12 年から平成 16 年の原動機 385 件であり、次いで、初度登録年が平成 12 年から平成 16 年の動力伝達装置 231 件、初度登録年が平成 17・18 年の原動機 172 件の順となっている。



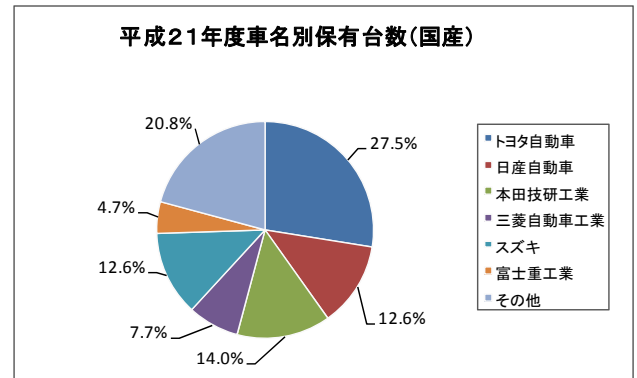
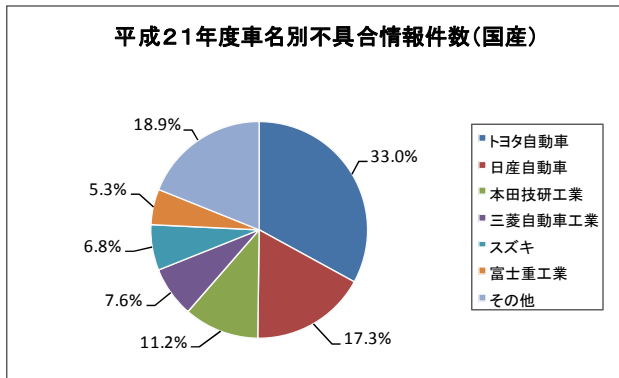
順位	初度登録年別		平成 19・20 年		平成 17・18 年	
	平成 21・22 年	件数	件数	件数	件数	件数
1	制動装置	150	原動機	102	原動機	172
2	原動機	66	制動装置	56	動力伝達装置	79
3	動力伝達装置	38	動力伝達装置	52	制動装置	67
4	保安・灯火装置	29	車枠・車体	39	乗車装置	50
5	車枠・車体	25	乗車装置	37	保安・灯火装置	35
6	乗車装置	20	保安・灯火装置	28	かじ取装置	33
7	かじ取装置	10	かじ取装置	22	燃料装置	22
8	電気装置	6	電気装置	15	車枠・車体	21
9	燃料装置	5	走行装置	15	電気装置	20
10	緩衝装置	5	緩衝装置	15	走行装置	13
11	排出ガス発散防止装置	2	排出ガス発散防止装置	12	緩衝装置	14
12	走行装置	2	燃料装置	10	排出ガス発散防止装置	10
	その他	31	その他	34	その他	29
	合計	389	合計	437	合計	565

順位	初度登録年別		平成 7～11 年		平成 6 年以前	
	平成 12～16 年	件数	件数	件数	件数	件数
1	原動機	385	原動機	90	原動機	12
2	動力伝達装置	231	動力伝達装置	34	動力伝達装置	8
3	制動装置	111	制動装置	30	燃料装置	6
4	かじ取装置	76	燃料装置	25	電気装置	4
5	乗車装置	73	かじ取装置	20	車枠・車体	3
6	保安・灯火装置	64	緩衝装置	16	保安・灯火装置	2
7	燃料装置	59	乗車装置	16	制動装置	2
8	電気装置	47	電気装置	15	乗車装置	2
9	排出ガス発散防止装置	41	保安・灯火装置	11	かじ取装置	2
10	車枠・車体	40	排出ガス発散防止装置	8	走行装置	1
11	緩衝装置	36	車枠・車体	7	緩衝装置	1
12	走行装置	19	走行装置	6		
	その他	52	その他	13	その他	3
	合計	1,234	合計	291	合計	46

8. メーカー別不具合情報件数（国産車）は、トヨタ自動車 873 件が全体の約 33%と最も多く、次いで、日産自動車 457 件、本田技研工業 297 件の順となっている。

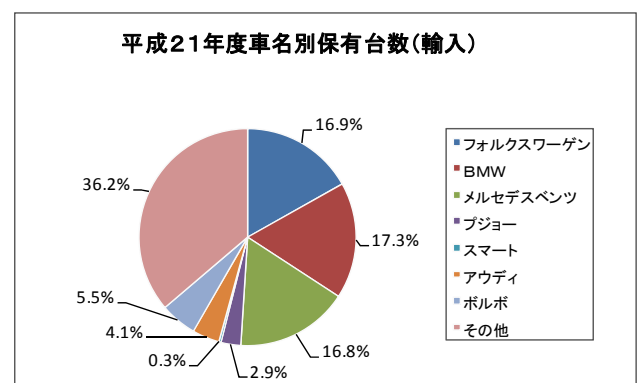
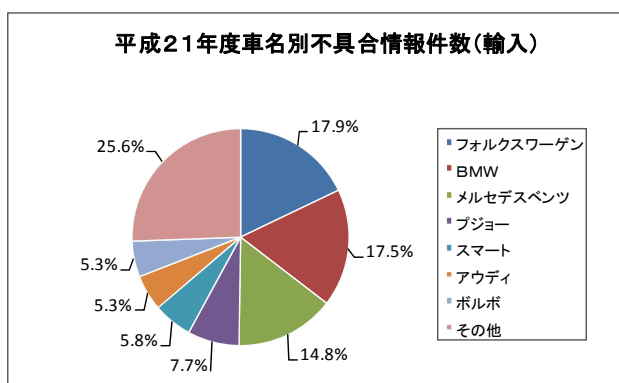
また、メーカー別不具合情報件数（輸入車）では、フォルクスワーゲン 151 件が最も多く、次いで、BMW 148 件、メルセデスベンツ 125 件の順となっている。

これは、自動車保有台数と概ね相関しているものと考えられる。



順位	メーカー名	件数
1	トヨタ自動車	873
2	日産自動車	457
3	本田技研工業	297
4	三菱自動車工業	200
5	スズキ	180
6	富士重工業	141
	その他	501
	合計	2,649

順位	メーカー名	台数(千)
1	トヨタ自動車	20,605
4	日産自動車	9,462
2	本田技研工業	10,478
5	三菱自動車工業	5,749
3	スズキ	9,465
6	富士重工業	3,529
	その他	15,577
	合計	74,865



順位	車名	件数
1	フォルクスワーゲン	151
2	BMW	148
3	メルセデスベンツ	125
4	プジョー	65
5	スマート	49
6	アウディ	45
6	ボルボ	45
	その他	216
	合計	844

順位	車名	台数(千)
2	フォルクスワーゲン	627
1	BMW	645
3	メルセデスベンツ	626
6	プジョー	109
7	スマート	12
5	アウディ	151
4	ボルボ	203
	その他	1,348
	合計	3,721